

## シンポジウム

# ザ・シンポジウムみなと in 苫小牧

## 開港 50 年～未来を拓く苫小牧港～

### ～苫小牧港の歴史を振り返り今後の戦略を考える～

ザ・シンポジウムみなと実行委員会

開港から 50 周年を迎えた苫小牧港の未来について考える「ザ・シンポジウムみなと in 苫小牧」(主催・ザ・シンポジウムみなと実行委員会)が 11 月 28 日、苫小牧市表町のグランドホテルニュー王子で開かれた。政策研究大学院大学の井上聰史客員教授が「世界の港湾の戦略変化と日本」と題して基調講演。パネル討論では、岩倉博文市長、辻泰弘道経済部長、神戸大の黒田勝彦名誉教授、苫小牧商工会議所の藤田博章会頭、苫小牧の市民団体「女性みなと街づくり苫小牧」の大西育子代表が、「苫小牧港の未来戦略」をテーマに、同港の開発の意義や今後の発展戦略について意見を交わした。

## 基調講演

# 充実した航路生かせ 物流 欧米とアジア結ぶ拠点に

井上 聰史 氏

グローバル化の進展で、世界の海上輸送量は 1980 年からの 30 年間で、2.3 倍に増えました。原材料の段階から製品が消費者に届くまでの流れのサプライチェーン(供給網)が、世界中に広がったためです。

東日本大震災の際、日本の自動車メーカーは、国内工場だけでなく海外工場の生産も休止しました。グローバル化の時代は、このようなリスクが伴います。そのため、世界中のメーカーは昨今、サプライチェーンの見直しを頻繁に行っています。そうすると、これまで使っていた港湾を、来年から別の港に替えるといったメーカーも出てきます。

港湾はこれまで、岸壁やターミナルを立派に

整備し、効率的なサービスを提供しさえすれば、多くの船舶が寄港してくれると考えられてきましたが、そのような時代は終わったのです。

1995 年以降の先進国の国内総生産(GDP)の伸び率を見ると、最も低いのが日本。日本企業が 90 年代以降、海外進出の動きを進めているためです。しかし、欧州の港湾関係者と話すと、みな、日本の地理的条件をうらやましがっています。欧州にとって、経済が伸び盛りのアジアは地球の裏側に位置しています。国際的に見て、日本のポテンシャルは非常に高い。アジアの活力を日本に取り込むことが何より重要です。

アジアとの間では、観光客を呼び込むのはもちろん、日本の高質な工業製品や農水産品を輸

出したり、その逆で、アジアで作られた工業部品を日本で加工し、欧州や北米に輸出したりすることも期待できます。

また、世界の高品質な商品を日本に集め、アジアの中高所得者向けに輸出することも重要。フランスの化粧品メーカーが、アジア向けの製造拠点を日本に開設するという動きもあります。このような動きを、もっと加速させたいものです。

そのために、日本の港湾が取り組むべき戦略が三つあります。一つ目は港周辺にロジスティクスセンター（物流拠点）を設けること。アジアに魅力を感じている欧米のメーカーや流通業の物流センターなど、多用な産業を集積させることが重要です。二つ目は、国内のサプライチェーンを強化すること。鉄道や陸上輸送など、後背地への交通アクセスの強化が一例です。三

つ目は、アジア各国への直行便の航路を設けることです。

苫小牧港には既に充実した航路がある。市内で農産物の加工をして付加価値を高めるなどし、このネットワークに載せればいい。日本のほかの港ではまねできない取り組みです。韓国や中国との間も定期コンテナ航路で結ばれています。韓国や中国向けの商品開発を進めれば、さらなる輸出拡大も期待できるでしょう。



いのうえ・さとし 東京大工学部卒業後、運輸省（現国土交通省）入省。運輸省第4港湾建設局長、国際港湾協会事務総長、国際港湾協会協力財団理事長などを歴任し、2010年から現職。

## パネルディスカッション

### 苫小牧港の未来戦略

新千歳と組み成長へ

岩倉

農産の輸出拡大期待

辻

港の催しにも可能性

藤田

地元食文化伝えたい

大西

航空貨物集積地にも

黒田

身近な魅力の発信も

小磯

**小 磯** 苫小牧港の50年を振り返り、歴史や現在の課題について、どのように考えておられますか。

**岩 倉** 開港した1963年から現在まで、港の取扱貨物量の増加のカーブと苫小牧市の人口増加のカーブはほぼ一致しています。港の歩みは苫小牧の歩みとイコールです。まちが一致団結して港を建設した経緯があって今がある。今後は、新千歳空港と苫小牧港の「ダブルポート」の機能強化に対し、どのように向き合っていくかが、苫小牧の次なる成長戦略と感じています。海外へのアピールも、どう戦略化して取り組め

るか考えています。

**辻** 北海道の港は輸入中心ですが、苫小牧港は外に出すものも着実に増やしてきたという強みがあります。苫小牧には多彩な形の産業があり、道内経済に対し、大きな役割を果たしています。また、東日本大震災の際は、苫小牧港から支援物資や自衛隊員が被災地に向かいました。太平洋と日本海の両方に航路があることや、自衛隊駐屯地に近いということも含め、バックアップ拠点の機能も今後の港の役割を考える上で大きな要素でしょう。

**藤 田** 苫小牧港の機能拡充と地域経済の発

展の歴史を考えると、物流の利便性の向上が経済を活性化することがよく分かります。開港後の歴史をたどってみると、製造業の集積、フェリー航路の充実、石油備蓄基地の立地などと続きます。今では自動車産業の進出によって、工場近くの沼ノ端地区は、若い従業員さんたちがどんどん住宅を建て、道内有数の人口増加地域になっています。苫小牧経済も港の発展とともに歩んできたのです。

**大西** 10年前、女性の視点を取り入れた市民団体「女性みなと街づくり苫小牧」を設立しました。行政関係者が口々にたたえる素晴らしい港がありながら、なぜ一般市民の組織がないのかと疑問に思ったのがきっかけです。みんなでJR 苫小牧駅から西港区まで歩く活動に取り組んだ際は、歩道のない地域があったり、ごみが落ちていたりと問題点を発見し、改善につなげるよう努力しました。幼稚園児に港で絵を描いてもらって絵画展を開いたり、港を花で飾ったりする活動にも取り組んでいます。工夫して、市民に足を運んでもらえる港にしたいですね。

**小磯** まちは港があるだけで発展するわけではなく、苫小牧の場合はきちんとした総合的な基本計画があり、産業にも結びついて発展したということが分かりますね。港の発展の歴史を、今後、未来にどうつなげるべきでしょうか。

**辻** 北海道は海外からも注目されています。アジア各国は道産食品に注目しており、北海道ブランドも浸透しつつあります。苫小牧港は、(北極海経由で欧州とアジアを結ぶ)北極海航路の可能性を考えると、欧州にも近く、今後は農産品の輸出拡大も期待できるのではないのでしょうか。

**黒田** 未来戦略を考えると、北極海航路をにらみながらも、ダブルポートというキーワードが気になります。新千歳空港の航空貨物と、苫小牧港の海上貨物の両方を扱える物流の拠点、千歳市と苫小牧市との間の鉄道沿線、例えば、



駅の近くなどに設置してはどうでしょうか。

**藤田** 港は近年、公園や海岸も整備され、市民に親しまれています。今年夏の開港50周年記念イベントには多くの人々が来場し、港でイベントを開くことへの可能性を感じました。ですが、港を象徴するような歌がないのがさみしいですね。誰か、「港町ブルース」のような曲を作ってくれればうれしいのですが。カジノを含む統合型リゾートも、ダブルポートのある苫小牧に誘致したいと運動しています。

**大西** 苫小牧は漁業で生まれたまちです。苫小牧漁協の女性部は、まちのPR活動を頑張っています。浜の元気はまちの元気です。新たな魅力をつくることも素晴らしいことですが、今ある魅力をアピールすることも大切だと感じます。今後、漁港区で女性部などによる食堂を開き、ホッキ貝など、身近な食文化を伝える拠点にすれば、全道から人が集まるかもしれません。物流だけでなく、人の流れも考えたい。今ある魅力を生かすことも必要と感じます。

**小磯** 苫小牧港のような、フェリー航路が充実し、人の出入りの多い港は、ほかの港から、うらやましがられています。身近な魅力を味わってもらうための取り組みは大切です。

**岩倉** 港が物や人の出入り口でしかないと考えた時代は終わりました。人口構成も変わっていく中、過去の延長で今後のことを考えても意味はありません。今後の物や人の流れについて、どのように考え、まちづくりにつなげていくのか、今日は重要な助言をいただきました。課

題もさまざまありますが、港の100周年に向け、まちぐるみで港に向き合い、未来の市民にとって、もっと元気な苫小牧市を残したいですね。

本稿は平成25年12月26日北海道新聞 日胆版に掲載された記事を同社の了解のもとに転載したものである。

## コーディネーター



### 小磯 修二氏

こいそ・しゅうじ 京都大法学部卒業後、北海道開発庁(現国土交通省)入庁。道開発庁企画調整官などを経て、1999年、釧路公立大教授、2008年同大学長に就任。12年から現職。

## パネリスト



### 岩倉 博文氏

いわくら・ひろふみ 苫小牧市出身。立教大経済学部卒業。衆院議員、会社役員などを経て、2006年から現職。



### 藤田 博章氏

ふじた・ひろあき 慶応大法学部卒業後、日本レイヨン(現ユニチカ)を経て、フジタ産業入社。78年からフジタコーポレーション社長。2006年から苫小牧商工会議所会頭。



### 辻 泰弘氏

つじ・やすひろ 東京都立大経済学部卒業後、道庁入り。道経済部次長、株式会社苫東社長などを経て、2013年4月から現職。



### 大西 育子氏

おおにし・いくこ 市民団体「女性みなと街づくり苫小牧」を2003年に設立。06年から北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会長を務める。食品製造販売、はすかつぷサービス社長。



### 黒田 勝彦氏

くろだ・かつひこ 京都大工学部卒業後、同大助教授、神戸大教授などを経て、2006年から現職。国土交通省交通政策審議会港湾分科会会長も務める。

#### 主催／「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」

北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、北海道港湾協会、(一社)寒地港湾技術研究センター、(一財)港湾空港総合技術センター、北海道、国土交通省北海道開発局

協賛／(一財)北海道開発協会、(一社)北海道開発技術センター、北海道港湾振興団体連合会、北海道港湾空港建設協会、北海道ポートエンジニアリング協会、(一社)日本マリン事業協会、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構、苫小牧商工会議所、(一社)苫小牧観光協会

後援／苫小牧港開港50周年記念事業実行委員会、苫小牧市、苫小牧港管理組合、苫小牧港湾振興会、苫小牧港開発株式会社、苫小牧埠頭株式会社、株式会社苫東、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道新聞社、苫小牧民報社、NHK 室蘭放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、TVh テレビ北海道、UHB 北海道文化放送